

第2回城東学園新たな学園づくり地域検討委員会 概要

日 時	平成30年1月31日（水）19:00 ～ 20:30
場 所	大東北公民館会議室
出 席	委 員 22人 事務局 教育長、教育部長、企画政策課長、学務課長、学校教育課主席指導主事 学校教育課主任指導主事、教育政策室係長、教育政策室主任 教育政策室指導主事
内 容	
<p>1 開 会</p> <p>2 教育長あいさつ</p> <p>3 委員長あいさつ</p> <p>4 報告事項</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 第1回地域検討委員会概要について</p> <p>5 協議事項</p> <p style="margin-left: 20px;">(1) 第1回地域意見交換会における意見等について</p> <p style="margin-left: 40px;">※事務局から説明</p> <p style="margin-left: 20px;">質疑・応答</p> <p>【委員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換会で、地域の方との温度差というか、検討委員会委員の意見と地域の方の意見は一緒なのに、別の人たちであるという考えがあった。 ・私たちも地域の人たちと同じようにスタートして、この城東学園をどうしていったらいいのかを考えていく仲間として選ばれたわけであるが、検討委員会が学校を統合する会と周囲から捉えられている。 ・私たちも子どもが大きくなってしまっているので、実際これから先、小さい子どもたちが3校で育っていきながら、どういう風になっていくのが望ましいのか、小さなお子さんのいるお父さんやお母さんに御意見をいただくのがいいと思う。 ・現在も学園化構想の下、子どもたちが3校合同で宿泊訓練をしたり、春の遠足に行ったりしていることを、地域の方はおそらく御存知ない。実際に足並み揃えて3校で仲良くやっているということを知らないことも肌で感じた。その温度差にびっくりした。 ・統廃合ありきではなくて、今ある子どもたちをどうやって教育していったらいいのだろうということを考えていく委員会だと思っている。地域意見交換会の意見とはちょっと考え方が違うと思う。 <p style="margin-left: 20px;">(2) 第1回地域検討委員会の復習・確認について</p> <p style="margin-left: 40px;">※委員長からパワーポイントを使って説明</p> <p style="margin-left: 20px;">(3) 小中一貫教育に関する意見交換（グループ協議）</p> <p>【1 グループ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・意見交換会の出席者のお話しでは、地域の捉え方は学校の統廃合であった。 ・地域の意見交換会は統廃合のこと。保護者の中では様々な憶測が飛び交っている。発信方法を考えていけばもっと混乱しないのではないか。 ・小さな子を持つ保護者は夜の会に参加することが難しい。 ・一貫教育の話が統廃合になっている。 	

- ・「地域の太陽」がなくなることには抵抗はある。その先のことを説明していく必要はある。
- ・意見交換会はどれくらい集まるか不安だった。もっと参加者を増やす必要がある。
- ・保育園や幼稚園の保護者の集まりに出て行って説明すべきではないか。
- ・保護者同士で伝え合うのは限界がある。
- ・保護者に知らせる工夫をしてほしい。PTA総会で説明するなどしないと、同じ方向を向かない。
- ・聞く、聞かせる場をつくる必要がある。
- ・地域では、まちづくり協議会や地区集会で説明ができると思われる。地区の総会に来てもらうことも可能か。
- ・意見交換会に出ている人だけの理解にならないよう、まちづくり協議会や保護者会等、全ての年代へのアプローチをしてほしい。
- ・団塊の世代と同じ話をしているのはよくないと思っている。
- ・複式学級という言葉1つとっても一般人にはわからない。
- ・小さい子の保護者は、小学校のことも中学校のこともわからないから、説明に出てくる用語がわからないと思う。

【2グループ】

- ・大東教育施設検討委員会、適正化検討委員会、第2ステージ検討委員会、小中一貫教育推進基本方針と色々な検討案がある。どうしていきたいのかがよくわからない。具体案がないので、検討できない。
- ・60年後のことについて、誰も責任はとれない。若い保護者であっても同じである。
- ・今日の鈴木委員長の説明が一番最初にほしかった。地域にこういう情報をどんどんおろしていかないといけない。「HPを見て」ではだめ。
- ・中学1年生の時は16クラスの学校だった。中2の時に分校した。グラウンドにプレハブ校舎がいっぱいでき、中1の時は、1度もプールには入れなかった。自分の子どもが土方小に入ったときは、なんて恵まれているのかと思った。嬉しいと思った。教室も広く使える、隣のクラスの先生も、うちの子の名前を知っている。でも、運動会なんかを見るとさみしいなと思った。
- ・中学の部活動も選択肢が少ない。特に文化部は吹奏楽部くらいしかない。子どもの興味のあるもの、能力を伸ばせる可能性のある部活ができない可能性もある。
- ・少子化でこのままやっていけないだろうとは思いますが、いつ決断すべきなのかはわからないし難しい。
- ・学校の場所、通学方法、バス、通学路のことなど、不安はたくさんある。上手く説明しないとまとまらない。
- ・アンケートを行ったらどうか。
- ・子どもの通学のことを一番心配している。こども園の時もそうだったが具体案が出てこないとな納得できない。
- ・通学用のバスに大人が乗れる地域があるという話も聞いた。こういうのがあると良い。保護者の心配、もっと将来的なことを心配する声もある。
- ・地域の意見を吸い上げてほしい。
- ・市は、地域全体でまとまることを求めているのか。
- ・具体的な行程表、スケジュール表を示したらどうか。
- ・方向性をどうするかにより、その後の行程は大きく変わる。
- ・小学校の校庭には、ドクターヘリが降りられるなど、地域の防災の拠点機能があることを考えると、そういう点では存続した方が良いのではと思う。
- ・子どもたちをどう育て社会に送り出すかということを中心に考えるべき。
- ・仮に学校を一体校として整備するということになれば、既存の小学校にあった地域コミュニティや防災の拠点機能をどう維持するのかという問題については、別途検討する必要があると考える。
- ・意見交換会の規模をもっと小さくして実施すれば意見が言いやすいのではないか。

【3 グループ】

- ・意見交換会の参加者から聞いたことだが、学校がなくなるという抵抗が強かったようである。
- ・幼保統合の次は学校なのかという感じであった。会議資料をいただいたが、なかなか頭に入ってこない。地域の人たちは、金銭的な問題と一緒にするな、という考えがあるようなので、説明が必要である。
- ・統合ありきと思われてしまい、受け付けられないといった感じであった。今回の委員長の話はわかりやすかった。
- ・意見交換会は、先入観だけが先行して対立構造になっていた。内容が地域の人たちに浸透していない。自分は、この会に出席してやっとわかるようになってきたので、1回聞いただけの人はわからないだろう。統廃合前提ではないことをはっきりさせた上で話を進めるべきである。
- ・全ての実態をつまびらかにしてから話を進めるべきである。今回議論がスタートして、それがわかっただけでもよかった。
- ・佐束、中、土方という各地区で話をしてもよかった。聞いた話ではあるが、最初から先入観が入っていたようである。
- ・地域の人たちは、地域の太陽がなくなってしまう、といった感じである。金銭的な問題も多いのでその視点も必要である。建替えも必要だが、いろんな視点から説明が必要なので、時間をかけて理解してもらわなければならない。
- ・前提の部分を明確にしてから進めなければいけない。自分も若い世代の意見として伝えたかったが、あの雰囲気では言えなかった。こども園化は決まっているので、その次は小学校であるというイメージがある。こども園は教育委員会とは管轄が違うが、場所等を早く決めていかないと地域の人たちは迷ってしまう。
- ・学校の形態で3つ紹介されたが、こども園周辺に小学校・中学校ができれば理想である。通うのが遠くなるので、通学バスが走れば、たくさんの友達とふれ合えてよい。複式学級になると、その子たちがかawaiiそうである。学校がなくなるのはつらいが、ずっと良い状態で続く会社もないわけで、状況を見て統廃合は必要ではないか。反対意見を言っていた人たちは、本当に困った時に自分たちがどうするのかという面が欠けていた。
- ・1つの校舎の中というより、小学校区分、中学校区分があれば、小学校でもリーダー性を発揮でき、近くで次の世代を見られる。時代を考えて何が最前線なのかを考える必要がある。
- ・今の小学校は、もっと広い範囲で考えるべきである。
- ・交通網が発達すれば、街も発展すると思う。今後、何をしてあげられるのかという視点が必要である。
- ・菊川市では、ハイエースのような車で、コミュニティバスがある。掛川市でも区内で走るバスがあって活性化すればよいし、子どもや高齢者等の地域の人たちが乗れるとよい。中地区は、バスが通っていない。店もないので困ったと言っている。バスが通れば、地域活性化につながる。
- ・中心は、城東中辺りになるだろうと思う。
- ・大学もあるので、その辺りの連携も可能になる。いろんな文化が吸収できる。
- ・中1ギャップというのは、自分たちの時代には考えられなかった。
- ・自分たちの時代は、上級生が怖かった。教科の専門性も高まり、適合できない子もいた。それをクリアすることも必要だが、適合できない子が増えてしまうのなら手を打たなければならない。
- ・今の子に、中小では、昔は今の倍の人数がいたというと驚かれる。もし3校を一緒にしても2クラスというのは少ないので、それを考えると一緒にしたほうがよい。
- ・教員免許を持っている人は授業に専念できるという環境が必要である。授業以外のことは、学校を支えてくれる人が必要である。
- ・方向性を検討する上で色々なデータがほしいし、それがあれば未来に向かって考えてい

ける。

【4 グループ】

- ・意見交換会では、統合は反対だという意見が強く、検討するつもりがないような雰囲気であった。
- ・今日のような具体的な説明があればわかったのではないか。
- ・地域意見交換会で人を集める工夫が必要。
- ・小中一貫教育は、これからのことだから、若い方の意見が重要ではないか。
- ・人口のことなどを考えると、学校がなくなると言っている状況ではない。
- ・学校が今少なくなるということではなく、これからのことである。
- ・子どもたちが少なくなっている。子どもたちの関わりをどうすれば良いか。
- ・地域意見交換会に出席した園評議委員の方から、「学園化もわからないし、統合、統合といって先走っていると思った」という声を聞いた。
- ・検討委員会委員を重く受け止めていなかった。
- ・幼稚園、小学校、中学校に子どもが通っており、園や学校から情報を得るが、保護者同士も最低限のコミュニケーションしかなく情報交換をしていない。
- ・小学校の児童が100人を下回ったとき、中小学校と土方小学校と合併という話もあった。
- ・学校から、もしくは学校を通じてお便りを出してほしい。保護者としてはお便りに目を通す方がいる。地域の方は回覧板で。
- ・もっと目に入るような工夫や定期的に配布されるなどの工夫があると保護者としてもわかりやすい。
- ・今日の資料の説明で分かりやすくなっているが、地域の人から見たら何を言っているのかわからない。
- ・現状を地域の方に理解してもらって、子どもたちの教育をどうあるべきか考えることが必要。
- ・地域は統合ありきの意見を出しているので、意見交換会のようにになってしまう。
- ・聞く人たちにとって、具体的に分かりやすくしてほしい。
- ・今の現状から、学校の在り方など考えていくことがよい。
- ・何を検討していくのか、切り口にしていくのか、1つずつまとめていくのが良いと思う。
- ・まちづくり協議会や地区へ出向いて行ってそこで説明をしてもらいたい。分かりやすくすることと、数をこなさないといけないと思う。
- ・漫画でもいいので分かりやすいお便りがあると、懇談会の時に見てもらえる。そのお便りを見ながら保護者同士で話すことができる。
- ・スライドでも、文字や絵があると分かりやすい。
- ・私たちも委員なので、検討委員会の内容を発信していかないといけない。1人でも多くの意見を集めていきたい。
- ・掛川市のこれからの「教育方針」や「学校の先生の困っていること」「地域にやってもらいたいこと」「学園の目標」がわかれば参考になる。
- ・様々なメリットとデメリットを提示されると、どちらの方が良いのか検討しやすい。
- ・単学級よりは、大勢の方がいいと思う。少なすぎて競い合いはできない。個人的な意見だが、せめて1学年2クラスぐらいあると良い。幼稚園から6年生まで同じ顔で暮らしている。競争心は衰える。クラス替えがあれば、気持ちを新たに頑張ろうと思う。
- ・子ども1人1人いいところはいっぱいある。しかし少人数の中で集団が変わらないとその良さの芽は出てこない。
- ・学校が統合したときに、遠くの人はどうやって通うのか聞きたい。

【5 グループ】

- ・意見交換会の参加者の多くが自分たちの父母世代。検討委員は統合推進派という捉えをしている。検討委員会で「学校をなくさないようにと伝えるように」という人ばかり。
- ・子どもたちはもう連携している。その世代の人は、それを知らないのではないか。
- ・現状を見ながら、子どもたちのことを考えようということが伝わらない。学校がなくな

らないという約束がほしいという感じである。

- ・佐東小の校舎は新しいため、土方小や中小の古い校舎の現状を佐東の方は知らないのではないか。3校同時に建て直すのは無理だから、良い方向を目指すというだけだと思う。
- ・子どもを持つ父親の方から、よりよい学校、良い環境を望むという意見もあった。もっと小さい子がいる人に聞くべきではないか。
- ・3小学校の観音山や遠足の連携など、もっと知らせていかななくてはならない。PR不足の面もあるのでは。
- ・意見交換会では、意見を事前に役割を決めて来ているという感じ。子どもにとってどうかという視点が大事。
- ・鈴木委員長の話をしてもらうのも良いのではないか。
- ・かみ砕いて、子どもたちの連携の様子を教える必要があるのでは。地域意見交換会の意見はかみ合わない。きれい事を言っていると捉えられている。現状でよりよい方向を目指すしかないということがわからない。
- ・反対意見が合っても良いが、正しく議論したい。
- ・学園化も第1期、第2期ときて、コーディネーターも初めは1人だったが、地域ごとに置くようになり、連携は上手くいっている。
- ・祖父母世代ではわからない。学校がなくならないということが理解できない。
- ・リーマンショック、地震、ブラジル好景気等で、外国人が減った。
- ・子どもが野球をしている。佐東と土方の合同チームで一緒にやっているがチームがなくなっているわけではない。
- ・意見交換会では、小中一貫の良さを聞かないのでは。
- ・城東学園通信を地域で読んでもらっているのか。
- ・統合を話し合う会だと思っている。子どもの教育について話し合っていることをわかっただけでない。もっと地域の方に知っていただく必要がある。

6 連絡事項

(1) 第3回委員会の内容について

平成30年3月16日（金）午後7時から、会場は大東北公民館2階集会室。

7 閉会